

進学ガイダンス資料 スラヴ語スラヴ文学研究室

研究室紹介

スラヴ語スラヴ文学研究室は、
小さいながら個性あふれた研究室です。

ロシアはもとより、そこからドイツに至るまでのヨーロッパ中部、
北はバルト海沿岸から南はバルカン半島まで、広くスラヴ世界の言語文化の研究に取り組んでいます。
歴史、言語、文化において多様性に富んでおり、個別研究でも、隣接領域で比較しても、
グローバルな文脈で問題をとらえる上でも、有効かつ魅力的な地域です。

扱う研究領域も、スラヴ比較言語学、フォークロア、ロシア文学、ソビエト期の芸術や文化、あるいはポーランド文学、
チェコ文学、バルカン半島の南スラヴ語とその文学など、多様な研究テーマが私たちを待ち受けています。その中から自
分のテーマを見つけだすことは大きな楽しみでもあります。

多彩な領域・研究テーマを扱うこともあって、常に互いの研究に似て非なる発見があり、世界が広がる感覚が刺激的で
す。教員、大学院生、学部生を問わず、学問上の経験や専門分野の違いを超えた自由な交流を尊ぶと気風は、研究室
の良き伝統として受け継がれてきました。最前線で活躍する国内外の研究者、創作者との交流も積極的に行っていま
す。かなり頻繁に行われる研究会やシンポジウム、映画会などでは授業とは一味違う「スラヴ文化体験」をすることもでき

留学・国際交流

在学中に留学する人も少なくありません。学内の留学助成制度を利用してロシアやイギリスに留学した例など
があります。夏休みを利用した短期のものから、単位交換制度に則った長期のものまでさまざまです。留学の
ための奨学金の取得や、留学先の選択について、研究室で積極的にサポートしています。

進学にあたって

第二外国語でロシア語を学んだ人だけでなく、第三外国語や独習で学んで進学する人もいます。本郷でも初・
中級文法が開講されています。進学時点でロシア語力に不安のある人へはフォローアップします。
スラヴ圏は歴史的に諸外国の影響を強く受けてきたので、独仏語等の学習も大いに役立ちます。
他のスラヴ語学習については開講授業をご参考ください。

開講授業

スラヴ語諸語

ポーランド語

チェコ語

ボスニア・クロアチア・セルビア語

ブルガリア語

古スラヴ語

ロシア語（初・中級）

※ロシア語は学部共通科目

演習・講義

スラヴ比較言語学

ロシア詩、文学史

ロシア・ソ連文学 等

情報発信

研究室紀要『Slavistica』

院生雑誌『篝火』

連絡先 slav@l.u-tokyo.ac.jp

スラヴ研究室 HP

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~slav/index.html>

スラヴ研究室 Facebook

<https://www.facebook.com/SlavicStudiesUTokyo/>



東大文学部スラヴ研究室



スラヴ FB



スタッフ紹介

三谷恵子教授

専門：スラヴ言語学、スラヴ文献研究。スラヴ言語文化論、東欧圏の言語と社会。

講義・演習：スラヴ諸語の特徴を論ずる授業や、スラヴ語（主としてロシア語）の歴史的变化についての演習を行っている。またボスニア・クロアチア・セルビア語の授業も開講している。

楯岡求美准教授

専門：ロシア・旧ソ連圏の文学・演劇・映画など。

講義・演習：小説、戯曲、映画、評論など、課題テキストに沿って補足説明をしつつ、参加者に報告、ディスカッションも行う。芸術手法の特質を論じると同時に、社会的・時代的背景も視野に入れて考察を行う。

越野剛助教

専門：ロシア・旧ソ連圏の文学・文化史。

講義：現在のベラルーシやウクライナに当たる地域で活躍した作家たちについて、国の枠を越えた跨境的な文学史を試みる。ロシア文学の古典の日本語訳の購読やベラルーシ語の授業を行う。

青山忠申教務補佐

専門：ロシア語アクセント論、17世紀を中心とするロシア文献研究。

研究会・国際交流

研究室で企画される国内外の研究者を招へいして行う研究会・講演会以外に、日本スラヴ学会、日本ロシア文学会、国際交流基金等に関連する各種研究会、講演会なども共催・協力しています。

2016年度：

日本スラヴ学会連続講義

ノーベル文学賞作家来日講演「スヴェトラーナ・アレクシエーヴィチとの対話」

エヴゲニー・ヴォドラスキン氏（『聖愚者ラヴル』でポリシャヤ・クニーガ賞等受賞）

2017年度：

オリガ・ヨコヤマ博士（カリフォルニア大学LA校）記念講演「バーバ・ヤガーの謎」

…他多数。

*詳しくはHPをご参考ください。

協力教員

阿部賢一准教授（現代文芸論研究室所属）

専門：チェコを中心とする中東欧文学。シュルレアリスム、「ジプシー」の文学、幻想文学。

講義：「チェコ語初級」。文法事項の説明の他、チェコの文化状況についても適宜解説を行う。



文学部3号館の最上階8階にある研究室は、大きな窓から、緑豊かな三四郎池から上野、スカイツリーまで見渡すことができ、文学部随一の眺望です。ぜひ一度お越しください！

卒業論文

文学・語学だけでなく、映画・音楽・バレエなど、幅広いテーマがあります。近年の論文例

「印欧祖語における最終音節の共通スラヴ語に至るまでの通時的変化について」／「ポーランド語とカシューブ語の過去時制—所有完了の発達を中心に」

「悪漢小説、教養小説として読む『わたしは英国王に給仕した』／「行為者としてのアレクセイ・カラマーゾフ：『カラマーゾフの兄弟』論」／「ニコライ・ベルジャエフの歴史哲学 人間の自由と歴史の終末」／「トルゲネフ『ファウスト』を読む」／「トルストイ『戦争と平和』におけるボロジノの戦い」／「『レモネード・ジョー或いは、ホースオペラ』の作品分析」（チェコ映画）／「ソ連アニメーションにおける「子どもの孤独」—『ヴィンニ・プープ』を中心に」／「『チェルカッシ』における海を中心とした自然描写の研究」（ゴーリキー）／「『罪と罰』のスヴィドリガイロフについて」など